

# 静勝寺報

第37号  
令和3年  
6月20日発行  
発行所静勝寺  
編集発行人  
高崎忠道

お施餓鬼お盆の季節が参りました。コロナ禍中ではありますが、皆様つつがなくお過ごしのことと存じます。▲さて昨年来の自粛生活中に庭やベランダで花や野菜を植えて「巢ごもりガーデニング」をはじめられた方も多いと思います。私も境内の垣根や庭木の剪定を始めました。まずは恰好からとはさみや電動バリカン等道具を買いそろえ、それらしい格好をしてから始めました。はじめは恐る恐るしていましたが、だんだん慣れて大胆にできるようになりました。そんな中で気づいたこと、勉強させられることが多々ありました。

▲まず驚かされるのは、その生命力の強さです。春先からどんどん芽吹いて葉を茂らせ、枝もぐんぐん伸びていきます。昨年切りすぎて葉もなくなりもうダメかなとあきらめていた垣根も、今春芽吹きだし緑の葉を茂らしてホツとしました。また、花が散るとすぐに翌年の花芽をつけます。ですから剪定の時期が遅れると翌年の花芽まで取ってしまうことになり翌年咲かなくなりません。これも今年咲いてくれるか不安でしたが、一部に咲かなかつた樹もあつたものの、だいたい咲いてくれました。▲また、形を整えるにはいくら表面ばかり刈り揃えても形よくなりません。本堂前につつじ（おおむらさき）の大刈込があります。刈り込んで当初は丸く綺麗に見えても翌日になると形が崩れ、遠目にも綺麗ではありません。内側を覗くと枝が入り組んで縦横無尽に走り回っています。同じ木の枝なのに、枝の一本一本が個々の生き物の如く、光を求めてそれぞれ伸びているのです。その入り組んだ枝に落ち葉がたまり、陽を遮って真つ暗になっています。その入り組んだ枝を払い、たまった落ち葉を落として中をすかしていき内側を整えていくと、外観もすっきり綺麗になっていくのです。風通しが悪いと虫も発生し、

たまった落ち葉も腐り、そのまま放置しておく、やがて木全体が枯れてしまうかもしれません。▲ふと人間も同じだと思えました。我々もつい表面、見かけや肩書に捉われています。そして、内側、心の中をみれば、あれもしたい、これも欲しいと様々な欲望が入り組んでごみがたまり、風通しが悪くなり暗く重くなっているのです。ですから、少しでも欲望や自分勝手な思いを控えて複雑に入り組んだ枝を払い、たまったごみを落とし、呼吸を整えて風通しをよくし、心を整えていくことが、表面の美しさ、つまりより良く生きることにつながります。▲また、枝の一本一本を国に例えれば、自国の

権益のみにこだわって紛争が絶えず、多くの市民が犠牲になっていきます。さらに、枝を人類に例えれば、その繁栄のみを追求して地球温暖化を招き、異常気象による災害が多発して、多くの犠牲者を出し、さらに他の生物の滅亡、強いては地球の破滅の道を歩んでいます。そしてその解決方法がわかっているにもかかわらず、紛争はやまず、温暖化は進みます。▲つい、我々は表面、目に見えるものばかりに捉われてしまいます。「いいね」の多さ、チャンネル登録数の多さを競い、それを得るため危険な行動や違法行為をしたり、売り上げ等見た目や数字で表せられるもの、すぐに効果、結果が出るものもてはやされています。学問においてもすぐに役立つ研究、成果が見られるものに研究費が出、そうでない基礎研究や文系の研究がないがしろにされているのではないのでしょうか。報告書の作成やノルマ達成にきゆうきゆうし、達成できなければ人格をも否定されるようです。しかし目に見え



つつじの大刈込（直径2.5m、高さ2m）

る数字だけがすべてではなく、目に見えない例えは、じっくり構築した人間関係、信頼関係が社会を救うはずですし、さらに人材はすぐには育ちません。伝統工芸もしかし、じっくり後継者育成しないと何百年と続いてきたものが絶えてしまいます。我々消費者も、安いもの、早いもの、便利なものにこだわりすぎると伝統、文化がやがてすたれてしまいます。▲植木は、翌年に咲く花、さらには数年先の形を考えて刈り込みます（私にはまだその技術力と経験はありませんが）。また、葉の一枚一枚は光合成して養分や酸素を作りますが、その役目を終えて枯葉となっても腐葉土となり、やがては木々の栄養となります。地中に張り巡らされた根は、水分や養分を吸い上げるだけでなく、地上の木を支え、大風でも倒れないよう頑張っています。さらに、腐葉土の養分はその木や周辺の植物だけでなく、地中にしみ込んで地下水となりやがては海に流れ込み、遠く離れた海の生物の栄養にもなるそうです。目に見えないところで、距離や時間を隔ててつながり役に立っています。世の中は目に見えるものだけではありません。我々人間も、直接関わりあう人だけでなく、一度も会ったことのない人、遠い国の人、ご先祖さまや過去の人たちが、子孫や未来の人たちとつながって何らかの役に立っているのです。さらに多くの生き物、海や山、地球上のすべて、月や太陽、時空を超えてつながり、それらのおかげで生かされているといえます。▲そんなことを教えてくれるのがこの一本のつつじであり、全ての植物、生き物です。全ての生きとし生けるものが先生であり、仏様といえます。▲道元禅師に「峰の色、深（たに）の響きもみなながら、わが釈迦牟尼の声と姿と」という和歌があります。「周りの山々、木々、そして谷川の水の音、この自然界全てがお釈迦様の声と姿となって、われわれに仏法、人の生きる道を示しているよ」との意になります。この世のすべてが仏様であるということです。否、人類以外のすべて

が仏様です。人類のみが欲望のままに生きて滅亡に導くものかもしれません。だから「修行して仏になる努力をせよ」とお釈迦様はおっしゃられたのでしよう。

▲植物は、どんな環境の中でも、光のあるほうに花を向け、枝を伸ばし、葉の一枚一枚が光合成をし、水分、養分のあるほうに根を伸ばし、根毛の一つ一つが養分を吸い、一生懸命生きています。我々も今、結果が出ていないと思っても、いつかは、いやすでに世の中の何らかの役に立っているのです。そのことを自覚し、すぐに思い通りの結果が出なくとも、くさることなく、卑下することなく誠実に生きていきましょう。

コロナで自宅にいる時間が多くなった今こそ、花や植物を愛でて心を養い整え、体を鍛え、体調を整え、勉強をし、見聞を広げ、大いに養分を蓄えましょう。一人一人が、呼吸を整え、思いやりの心を持ち、自分勝手な行動をつつしむ努力をすることが仏に近づく道、よりよく生きる道です。それが地球を守る道です。

**今後の予定**

○施餓鬼会

本年は七月九日午前中に住職はじめ山内のみで行います。例年通り塔婆ならびにご供養の受付を致しますので、同封のハガキにてお申し込みください。施餓鬼会のお布施、護持会費は同封の郵便振替にてお願いいたします。

○棚経（お盆のお経）

ご希望の方はなるべく6月中にご連絡下さい。

○道灌まつり（太田道灌公の命日）

七月二十六日（月）午後4時半 法要 道灌堂

お祭り 5時より階段下参道、夜店（予定）

お祭りは中止になる可能性があります。

○秋季彼岸会法要九月二十日（月）敬老の日

午前十一時 うた、法話、法要（予定）

○坐禅会 毎月第一土曜 午後2時半～5時

定員18名（予約制）



フキノトウ



なつみかんつ  
大輪だぜえ



フキ



梅の実



レンコン



静勝寺ホームページ

<http://joshoji1486.sakura.ne.jp/>

坐禅会、写経会、うたの会の予定は  
こちらでご確認ください



インスタグラム

日頃の境内の写真を載せてます。

@jozanchudo

編集後記 おかげさまで、静勝寺産の作物がいっぱい採れ、いろいろ調理して食べました。ありがたいことです。それにつけても、庭木の手入れは楽しいです。忠道

○写経会 毎月第一土曜  
午後2時半  
定員20名（予約制）

○うたの会 毎月第四土曜  
午後2時半～ 定員18名（予約制）

○日曜坐禅会、朝の会  
毎週日曜朝6時 坐禅会、  
6時50分～7時20分 朝の会（読経  
と話）  
定員18名（予約制）

ご予約、お問い合わせは  
03-3900-4455まで  
コロナの感染状況によっ  
ては休止する場合もあり  
ますので、電話、ホームペ  
ージよりご確認ください。